

令和7年度 学校経営計画

1 学校教育目標

障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を養い、友愛の中に自己を実現し、社会的に自立する明るくたくましい人間を育成する。

〈校訓〉 ○仲よく楽しく学びましょう ○恐れずくじけず励みましょう ○明るく正しく生きましょう

2 学校の特徴

- ・聴覚障害のある幼児児童生徒と軽度知的障害のある高等部生徒が、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立して社会参加することや、共に学び、共に生活して、地域社会で活躍することを目指して学んでいる。
- ・聴覚障害のある生徒を対象とした、幼稚部、小学部、中学部、高等部、高等部専攻科があり、幼稚部には0歳、1歳、2歳児のための乳幼児教室がある。また、軽度知的障害のある生徒を対象とした、高等部に福祉・サービス科を設置している。
- ・個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成し、一人一人の教育的ニーズに応じた教育を行っている。
- ・コミュニケーション能力を養い、社会性や望ましい人間関係を育てるために、それぞれの学部が地元の保育園や学校と交流活動を行っている。
- ・聴覚障害教育センターとして、幼稚園・保育園・こども園、小・中・高等学校、特別支援学校に在籍する聴覚障害児及び卒業生を含む成人聴覚障害者を支援している。
- ・中学部・高等部の生徒全員が卓球部に所属し、北陸地区聾学校体育連盟・中学校体育連盟・高等学校体育連盟主催の各大会に参加している。

3 学校の現状と課題

ア 現状

- ・聴覚口話法を基本とし、個々の実態に応じた有効なコミュニケーション手段（手話、指文字、筆談等）を用いて、コミュニケーション能力の育成を図っている。
- ・医療体制の充実による障害の早期発見や地域の学校への進学等により、幼児児童生徒数が減少し、一人学級、少人数学級が多く、集団による学習活動が難しくなっている。
- ・障害の重度・重複化、多様化により、幼児児童生徒の個々の教育的ニーズに応じた教員の指導力の向上が求められる。
- ・職業観を高め、自分に合った進路選択ができるよう幼児児童生徒の発達段階に応じた指導実践が求められる。また、聴覚障害生徒の高等部卒業後の就職や進学、軽度知的障害生徒の就労支援等多様な進路希望に対応するため、個々に応じた進路指導の充実が求められる。
- ・医療的ケアの児童生徒が在籍しており、指導医、主治医、保護者、担任、養護教諭、看護職員等が連携を密にし、安全な医療的ケアの実施に努めている。
- ・聴覚障害教育センターとして、地域の聴覚障害幼児児童生徒のニーズに応じた支援を提供できるよう、地域の学校や関係機関と連携し、聴覚障害教育の充実を図ることが求められており、聴覚障害教育における専門性の維持・向上が必要である。
- ・防災や感染症予防など、緊急時における校内の体制づくりに努め、危機管理に対する対応力を強化する必要がある。
- ・幼児児童生徒数の減少から教員数が減少し、今後、学校の小規模化が予想される。そのため、業務の精選や分掌業務の統合など学校運営上の工夫が必要となってくる。

イ 課題

- ・対話や協働により新しい解や納得解を見出すことができるようにするための支援の在り方を探る。
- ・聴覚障害教育センターに関する情報発信に努め、聴覚障害児の在籍（園）のニーズに沿った支援を行い、教育相談の充実を図る。

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画			
1	学習活動	教育課程 (教務部)	目標	○効果的な指導計画の作成及び活用・評価のために、個別の教育支援計画、個別の指導計画、成績関係書類等の関連を整理し、作成に取り組む。	
			計画	・法令等の根拠を参照しながら進める。 ・校務支援システムの各書式を確認し、記入例や作成計画、マニュアル等の整備を行う。 ・他校等から情報を収集したり、各学部と意見交換し合意形成したりしながら作成する。	
		教科指導 (幼稚園)	目標	○周囲の人と関わりながら遊びを発展させていくための支援の在り方を探る。	
			計画	・幼児の実態を把握し、情報共有を行う。 ・それぞれの幼児の期待する姿について共通理解を図る。 ・期待する姿に近づくための遊び場面の設定と支援について検討を行い、実践・振り返りを行っていく。	
		教科指導 (小学部)	目標	○学び合い活動を通して言語力を高め、主体的に課題を解決しようとする児童を育てる支援の在り方を探る。	
			計画	・児童の言語力やコミュニケーション力に関する実態を把握し、共通理解を図る。 ・児童の言語力を高め、主体的に課題を解決しようとする授業づくりについて検討する。 ・掲示やお知らせボード等、児童の言語力を高める環境づくりについて検討する。	
	教科指導 (中学部)	目標	○対話や協働を通して、協力して課題を解決することができるようにするための指導・支援の在り方を探る。		
		計画	・中学部における「対話や協働により主体的に課題と向き合い、解決しようとする」生徒の姿を共通理解する。 ・生徒の実態を把握し、情報共有を行う。 ・効果的な場面設定を検討し、やり取りや話合いの事前指導と振り返りを行う。		
	教科指導 (高等部)	目標	○対話や協働により新しい解や納得解を見出すことができるようにするための支援の在り方を探る。		
		計画	・生徒が自問自答する場面や教師とやり取りする場面、自分以外の生徒の考えを知り自分を見つめ直す場面等を設定し、自分の中に新しい考え方を見付けたり自分とは違う他者の考え方を認めたりすることができるように支援方法を検討する。 ・学部行事において、聴覚障害の生徒と知的障害の生徒が対話や協働する機会を設定し、お互いを理解し合うことが、自分を見つめ直したり、相手に自分のことを主体的に伝えたりすることにつながるように支援方法を検討する。		
	2	学校生活	生徒指導	目標	○発達段階に応じた指導を通して規範意識を育み、ルールやマナーを主体的に守ろうとする態度の育成を図る。
				計画	・学校や社会のルールやマナーを知り、理解することで安全で楽しい学校生活を送ることができるようにする。 ・外部講師を招いたり、道徳科等の授業と連携したりして、校内外のルールやマナー、約束を理解できる機会を設定する。
保健		目標	○幼児児童生徒が、歯みがきの大切さを知り、自分の歯みがきの状態を把握し、歯みがきで気を付けることを確認できるようにする。		
		計画	・年に2回、歯みがき等についてのアンケートを取る。 ・学部集会等で、歯みがきの大切さを知らせる。 ・年に2回、染出しを行う機会をもつ。 ・年に2回、幼児児童生徒が自分の歯みがきの仕方を確認する機会をもつ。		

3	進路支援	進路指導	目標	○就業体験のイメージを具体化できる情報発信と、個別相談の充実により、生徒一人一人の主体的な進路選択を支援する。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや校内掲示、進路だより等で、就業体験者の声や写真・動画を積極的に活用し、タイムリーな情報発信を行う。 ・就業体験の事前学習では、目的意識の明確化やマナー指導を行い、事後学習では、振り返りや成果発表の場を設け、学びを深める。 ・生徒や保護者との面談や情報共有を積極的に行い、生徒の進路選択を支援する。 ・進路指導担当者が進路指導に関する研修会に積極的に参加し、スキルを高めて面談の質を向上させる。 	
4	特別活動	特別活動	目標	○幼児児童生徒が主体的に行動し、互いによりよい関わり方ができるようにする。
		計画	・児童会、生徒会を中心に全校で取り組める活動を企画し、実行することで、普段の学校生活の中で関わる機会を増やすようにする。	
	学校図書館	目標	○図書室の整備や図書室利用の機会の拡充を図る。	
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館司書の助言を基に、見やすく借りやすい図書の配置を行う。 ・貸出率が向上するよう、図書委員会で本の紹介や本に興味をもってもらえるような活動を企画する。また、学校図書館利用の生徒向け説明会等を行う。 	
5	その他	PTA活動	目標	○保護者や幼児児童生徒の利益につながる活動になるよう支援する。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ・他校のPTA活動等の情報を収集し、本校幼児児童生徒に合った活動を企画できるようにPTAをサポートする。 ・事後に、活動の有用性に関するアンケートを実施し、向上を図る。
		教育相談 重点2	目標	○聴覚障害教育センターに関する情報発信に努め、聴覚障害児の在籍校(園)のニーズに沿った支援を行い、教育相談の充実を図る。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害教育センターのパンフレットを作成して、県東部の市町村教育委員会等に配布し、本校の役割について理解を図る。 ・定期的な教育相談利用者の在籍校(園)、県東部の難聴特別支援学級を訪問して、聴覚障害教育センターの役割を説明し、在籍校(園)のニーズを聞き取って必要な支援に当たる。 ・聴覚障害教育に関する講座を開き、関係職員の専門性向上を図る。
		研修	目標	○各学部における対話的な学びや協働的な学びの在り方の研究を推進し、学校課題解明を図る。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校課題の共通理解を図り、各学部の研究主題の設定及び研究計画の立案を行う。 ・対話や協働を取り入れた授業研究や事例研究を通じた成果と課題について、年に2回共通理解を図る場を設け、学部間の連携を深める。
図書・情報	目標	○幼児児童生徒の情報活用能力向上と情報モラルの理解を促進する。		
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部にICT教育推進リーダーを配置し、リーダー間で定期的な研修会を実施して、情報活用能力向上と情報モラルの理解を図る。 ・ICT機器を活用し、個別最適な学びを目指した授業実践を行う。 ・デザインツール(Canva)や生成AI等の児童生徒利用のための環境整備や研修を行う。 		

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和7年度 富山聴覚総合支援学校アクションプラン（高等部） - 1-		
重点項目	学習活動	
重点課題	生徒が対話や協働により新しい解や納得解を見出すことができるための支援の在り方	
現 状	<p>高等部では、生徒が自己理解を深め、社会の中で自分らしく主体的に生きていくために必要な力を身に付けることを目指し、自己を見つめる学習や他者からの意見を聞く機会を設けたり、実生活で必要なコミュニケーション・スキル等が身に付くような学習を取り入れたりしてきた。</p> <p>その成果として、設定された集団学習において、聴覚障害の生徒も知的障害の生徒も、図や文字をホワイトボードに書いて伝えようとするなど、相手に伝わるコミュニケーション手段を積極的に使ってやり取りする姿、学習を通して得たことを振り返る姿がみられるようになってきた。一方で、自分の考えや必要な支援を相手に分かりやすく伝える力、自分の思いと異なる場面で相手の立場や物事の経緯に耳を傾ける力等には弱さがみられた。</p> <p>そこで、対話や協働の場面を設定することにより、自分の中に新しい考え方を見付けたり、自分とは違う他者の考え方を認めたりして課題を解決しようとするように、支援の在り方を考えていく。</p>	
達成目標	生徒が自分とは異なる他者の考え方を知り、その先の行動や方策を具体的に考えることができるように支援する。	生徒が自己との対話により、自己理解を深めることができるように支援方法の検討を行う。
	具体的な行動や方策をワークシートに書く 生徒の割合80%以上	年間5回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の考え方を問うアンケート調査を年3回程度、高等部生徒全員に行う。 調査の結果から自分と異なる考えを知り、その先の自分の行動や方策を考えてワークシートに書く機会を設定する。 生徒が具体的な方策を書くことができるような発問や支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自己理解が深まるように、福祉、流通、ワークトレーニングの作業日誌の様式（問いや評価基準等）を見直す。 対象生徒、事例を決めて、自己理解が深まるような問いかけ、振り返りの方法をグループで検討する。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和7年度 富山聴覚総合支援学校アクションプラン（教育相談部） - 2-		
重点項目	その他	
重点課題	聴覚障害児の在籍校（園）のニーズに沿った支援の在り方及び教育相談の充実	
現 状	<p>教育相談部の業務は、就学相談、乳幼児教室、定期的な教育相談等の相談業務をはじめとして、学校見学会等の理解啓発活動、幼稚園保育園、学校等への地域支援、本校幼児児童生徒の聴力測定や補聴援助システムに関する聴覚管理等、多岐に渡る。</p> <p>中でも、乳幼児教室や定期的な教育相談の利用者数は一定で推移しており、そのニーズは根強い。地域のこども園、保育所、学校からの難聴のある子供に関する相談についても同様である。この状況から、聴覚障害がある子供たちへの早期からの継続的な支援に対する必要性が高く、本校が聴覚障害に関する専門的な教育・相談・情報提供を行う聴覚障害教育センター校としての役割を強く期待されていることが伺える。</p> <p>一方で、地域の難聴特別支援学級の現状とニーズをつぶさには理解できていないため、現状を把握し、聴覚障害に関する情報や本校の役割の啓発を推進し、連携を強化することが重要な課題と言える。また、本校の職員に対しては、聴覚障害に関する理解をさらに深め、より効果的な教育方法や支援に関する共通理解を図り、専門性の維持・向上が求められている。</p>	
達成目標	富山県東部にある難聴特別支援学級、乳幼児教室、定期的な教育相談利用者の在籍校（園）を訪問し、理解啓発を行う。	職員に対し、研修会への参加を促し、専門性の維持・向上を図る。
	10校（園）以上	年に2回実施
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 聴覚障害教育センターのパンフレットを作成して、訪問先に配布し、聴覚障害教育センター校の役割について説明する。 訪問先の学校（園）のニーズを聞き取って必要な支援を整理し、ニーズに応じた適切な情報提供や支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談部で主催している聴覚障害教育に関する講座（きこえとことばの研修会、夏の集い等）への本校職員の参加を促し、専門性の維持・向上を図る。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）